

目的 イギリスにおいて、労働年齢の女性労働力率は80年代半ばに70%を越え、専門管理職フルタイム就労の女性が増加した。しかし、女性が多く参入している職種は、一般職（一般事務職、秘書）、個人向けサービス業（保母）および販売職である。また、労働形態では、男子はフルタイム就労が8割に達するが、女性はフルタイムが4割弱であり、短時間労働に就く割合が依然として高い。

このように、労働市場における女性が置かれた位置について、女性がどのくらい参入しているかを示す割合が中心に検討されてきた。そこで、本研究は、あらたな指標として所得に着目し、女性の位置について検証する。特に、労働市場における女性間の収入格差に焦点を当てて検証する。

方法 イギリス労働力調査のローデータを基に、過去1年間に収入を得た女性間の収入格差を検証する。

結果 女性間で所得格差が顕著に現れた項目は、職種および職業階層であった。たとえば、フルタイム就労では、専門職および管理職と一般職との格差は2倍以上、準専門職と一般職は1.5倍以上の開きがあった。個人向けサービス業は、一般職の1/9であった。

雇用期間では就労形態ごとに検討すると所得に大きな差は見られなかった。配偶関係では、フルタイムでは大きな差が見られなかったものの、短時間労働者では同居配偶者の有無で差が見られた。